

令和元年度

学校関係者評価報告書

令和2年9月

筑波研究学園専門学校
学校関係者評価委員会

■令和元年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、日頃の教育活動について自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置し、様々な立場を代表する委員の皆様から学校運営・教育活動実績報告書をもとにご議論いただき、本校の学校運営や教育活動に対して点検・評価していただいております。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の評価結果について報告します。

1. 実施日時・場所

令和2年9月29日(火) 13:00～15:00

筑波研究学園専門学校 1号館 会議室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○委員長

古森 貞弘 茨城県立牛久高校元校長 教育関係

○評価委員

仁衡 琢磨 一般社団法人茨城研究開発型企業交流協会 会長 業界団体
ペンギンシステム株式会社代表取締役社長 (地元企業)

高橋 浩 茨城県自動車整備振興会 教育部教育課 課長 業界団体

河野 正博 一般社団法人茨城県建築士事務所協会 常務理事 業界団体
株式会社 河野正博建築設計事務所代表取締役 (地元企業)

飯野 晃 土浦商工会議所 中小企業相談所 所長 業界団体

坂巻 操 筑波メディカルセンター病院 事務部外来一課課長 地元企業

倉田 和典 社会福祉法人えがお 理事・法人事務部長 地元企業
特別養護老人ホームひかり施設長

大友 国彦 五籃会会長 (保護者会代表) 保護者

笠間 俊雄 輝峰同窓会会長 (卒業生代表) 卒業生

○学校関係

佐久 芳夫 学校法人筑波研究学園 理事長

松下 博充 学校法人筑波研究学園 専務理事

野口 孝之 筑波研究学園専門学校 学校長

大森 淳子 筑波研究学園専門学校 副校長／こども未来学科 顧問

岡田 地余 筑波研究学園専門学校 ものづくり学科長・経営情報学科長

杉山由紀夫 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長

原 智樹 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長

横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長

唐澤 優江 筑波研究学園専門学校 こども未来学科長
吉川 勝 筑波研究学園専門学校 総務部次長
木我 直樹 筑波研究学園専門学校 総務部

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：令和元年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価

3. 評価の項目

次の10項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

(1) 各項目について、次の4段階を基準とし、小数点第一位で評価しています。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(小数点表示は評価者の平均点を記載)

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項等を記載

5. その他

令和元年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目 1 教育理念・目標

評価：3.5

- ① 3（学校の将来構想）は専門学校として最も肝要な項目。「再生」の第1の柱とすべき。
- 4（学校の理念等の周知）については ホームページだけでなく、さまざまな形で保護者・関係校に伝え信頼感につなげる。
- ➡ オープンキャンパスにおいては保護者の方の参加も多く、全体説明を通して学校の理念・産学協同についてお伝えするようにしている。大学と比較した就職率の高さについては、高校の教員からも評価をいただいている。
- ② 「産学協同の学校」として職業実践専門課程の一層の定着をお願いしたい。具体的な行動指針が明確となったことは良いことで、教職員全員がベクトルを合わせて教育活動にあたっていただきたい。
- ➡ 「産学協同の学校」として職業実践専門課程の一層の定着を図ること、学生向けの職業教育に加え、将来的には業界や企業等と連携した研究開発やキャリアアップ教育の場として地域貢献に寄与していく。
- ③ 学生・保護者等へ周知する機会として、TIST network を利用されてはどうか。
- ④ 「学校の理念」について、「理念」「学則1条」「校訓」「教育目標」「教育方針」等、もう一度整理してみてもどうか。
- ➡ 「理念」「校訓」「教育目標」「教育方針」と明確に分かりやすいよう、学校ホームページやキャンパスガイドにおいて、次年度に向け整理する。

項目 2 学校運営

評価：3.1

- ① 1（運営方針）・2（事業計画）は「入学して良かった TIST」で明確化、鋭意 実行中では。下記の【課題】【改善方策】の主旨を具体化・明確化すべき。
- ➡ これまでの事業計画は法人と学校の議論が十分でなかった。令和2年度は昨年度の評価委員会で明確になった課題を受け、学校としての行動指針「TISTの基本理念」を作成し、これを基盤とした「事業計画」を策定している。具体的な数値目標、実行タスク（何をやるのか）が十分でない部分については、年度末に向け後期の改善計画で明確にしたい。
- ② 昨年の課題であった規程の整備状況について教えていただきたい。また、事務業務の効率化はどの職場においても大きな課題となっている。一方、教育の効率化は質低下を招きかねないので、その点においては誤解のないようお願いしたい。
- ➡ 人事、給与に関する規程は整備された。今後、その他の規程の整備を順次進めていく。
- ③ 年齢構成を配慮した人材登用を継続することが重要だと感じる。
- 生徒数を増やすためにも職員確保は必須である。
- ④ 少子化進行は存続に関わる極めて重大な問題であるという認識のもと、10～15年程度の長期計画を策定。3～5年の中期、1年の短期に落とし込むべき。
- ⑤ 運営方針や事業計画の見直し、学校事務IT化を望む。
- ➡ 学校事務のIT化、業務の効率化は必要。教育の効率化は質低下を招くことに注意し、学校の事務と教員の事務は、分ける形で取り組みを進める。

項目3 教育活動

評価：3.8

- ① 1 2（業界等との連携において優れた教員の確保）は、具体的にどのような内容か。また、評価が3.7と高い理由は？
- ➡「卒業後の人材像を想定し、業界・企業等と連携している教員を配置している。職業教育に必要な連携授業を設計し、業界・企業等との調整ができる」体制を整備。課題はあるものの具体的な連携が可能となっている。
- 1 4（教職員の研修）について、「TISTの教育理念」に基づいて忠実に資質向上を図るべき。
- ➡指導力向上については、「難しいことを解りやすく（資料・説明）」「達成感を感じさせる指導」を念頭に、「研究授業等、学内研修」をおこなう。知識・技術については産業界から学び、また、人間教育や社会教育のできる教員の育成に向けては外部より講師を招聘するなど研修の機会を拡充したい。
- ②資料より実践的な職業教育を全学科で取り組んでいることが伺える。各学科で産学連携担当を配置した成果が見られる。今後は、これらの学びを各学科の重要科目として位置づけ、学生や保護者、受入企業等に十分理解させていくことが大切。結果として「産学協同の学校」として評価にも繋がる。
- ③企業実習等、学外授業を多く取り入れた教育は生徒にとって有意義な経験である。
- ④改善への取り組みは素晴らしい。これを不断に継続いただきたい。
- ⑤各専門分野の業界団体等からの意見を教育課程編成に取り入れていることは評価できる。
- ➡企業実習の事前・事後指導の徹底、連携授業の位置づけを学科の中核に位置づけることを進め、それをTISTの特色としていきたい。

項目4 学修成果

評価：3.4

- ① 3は入学生の減少やTIST信頼性の課題と密接な関係にある。
- 「入学した学生」は「必ず卒業」への得策をどのように考えているか。
- ➡退学の理由については、学業不振や不適應、経済的な事情や進路変更が挙げられる。問題を抱えた学生については、保護者との連携も含めて早期に対応するとともに、学納金の分納や奨学金についての相談や、転学科を含めた進路変更などのフォローも適切におこないたい。
- ②学習成果は入学希望者が最も重視する情報である。資料以外にもホームページにも公開しているが、学科の目標とする資格、その合格率が見る側にとって魅力となるよう期待する（学科によっては公開することがマイナスになっていないだろうか）
- ③保護者としては就職率については一番の重要項目である。
- 経済的事情での早期退学への救済等対応に注力していただきたい。
- ④定期的に入社している企業以外の卒業生から情報を収集するのは非常に困難かと思われる。
- 卒業生から直接、メールや専用ホームページを設けて情報を提供して貰う等は、いかがか。
- ⑤学科により資格の取得にもの足りなさを感じる。
- ⑥高い就職率を確保している。
- ➡資格取得率が低い学科については、昨年度よりカリキュラムや目標資格について見直しをおこない、令和2年度より新しいカリキュラムでの運用をおこなっている。

項目5 学生支援

評価：3.6

- ① 2（学生相談）・3（経済支援）は弱者への対応で、上記の3の「退学率の低減」と大きく関わる内容。担任＋学科全体および部門が連携し早めの対応をおこなう。あわせて校長・理事長が迅速に状況を把握できるようにする。
- ② 学生への法令遵守に関する指導はぜひお願いしたい。学費分納は保護者にとってありがたいが結果として未納状態が続き退学にならないような支援の在り方を検討してほしい。こども未来学科の社会人向け通信教育課程に期待する。
- ③ 在学中に成人となる学生が多いので、未成年から成人になることへの心構え（法令遵守）の指導をお願いしたい。（当然保護者も）
- ④ 半年以内の離職率も少なく、よいと思う。
- ⑤ 学費分割納付制度については、おおいに評価できる。

- ➡ 特に経済的な問題から退学に繋がるケースが非常に多いが、本人は隠すため問題の発見が遅れるケースがある。経済的な支援策として分納制度を活用するとともに、未納が生じた初期の段階で、学科と部門が連携して早期に対応できるよう、詳細を検討中。
- ➡ 法令遵守については、「良いこと・悪いこと」への毅然とした指導にあたる教員の姿勢が求められている。社会規範や法令順守など、事前に教育内容を整理して教員の共通理解を図った上で、学生の指導にあたることを徹底したい。

項目6 教育環境

評価：3.6

- ① 2のインターンシップは、「職業実践専門課程」の最大のテーマではないだろうか。
- ② 学外実習先の確保は大変ではあるが、ぜひ、先生方が多くの企業との関係を築き、実践的な教育の充実を図っていただきたい。
- ③ 既に実践されているかと思うが、整った教育環境をアピールしていただきたい。
- ④ インターンシップの更なる充実を図っていただきたい。

- ➡ 現場実習が学校全体で行われるようになった。学科によっては学外実習先の確保に苦戦しているが、企業との連携を築くことで確保できると考えている。少なくとも卒業生が就職した企業への訪問は、全学科で取り組む課題である。

項目7 学生の受け入れ募集

評価：3.6

- ① 1（募集活動の適正）の「適正」を計る指標は何か。評価は4.0で良いのか？
 - ➡ 募集活動における「適正」は、募集要綱や選考基準、合否判定等が「適正」かどうかという観点に立った評価。この指標から判断し、評価を4.0とした。
- ② 2（教育成果は正確に伝えられているか）についての評価3.5は適切か？
最大課題である「学生の受け入れ募集」の内容が、TISTに合った「適性」なものあるかを再度検討してほしい。
- ③ 関連学科については十分に理解しているものの、その他の学科についてはホームページや学校案内を見るが理解が難しい。そのような意味では、同封されているチラシはとても分かりやすい。学費分納はありがたい制度であるので、もっとPRした方がよいと思う。

- ④就職率が高いこと、離職率が低いこと、高度な資格取得ができていることなど、アピールを強化されると更にいいと思う。
- ⑤オープンキャンパスの回数、保護者対象進学相談会実施はおおいに評価できる。

➡ 2（教育成果は正確に伝えられているか）については、まだまだ課題がある。チラシについては良い評価をいただいているが、中身の完成度を向上させるとともに、見る側の視点で見直す必要がある。

各学科においても、業界ニーズ、学科の人材育成目標、職業実践専門としての実績等、アピール内容の整理を行い学科の教員が同じ視点から募集活動を行えるようにする。さらに対策委員会等を活用し、他学科の募集活動への関心を高め相互に磨きをかける。

項目 8 財務

評価：3.0

- ①昨年、課題となった学科別収支は実行されているかどうか。また、これらは教職員が理解し、一人ひとりが当事者意識をもつことが重要である。また、努力が成果に繋がり、成果が評価に反映されることで、一人ひとりのやる気を引き出すことが可能である。
- ②オープンキャンパスが積極的に実施されている。
- ③中長期的なビジョンを描けると更にいい。

➡ 昨年、課題となった学科別収支は実行され、「学科＝学校」、教職員が当事者意識をもつきっかけとなった。意識が高まっている教職員の次へのステップ（方向性・何をするか）を明確にする段階。

財務基盤の安定に向けた抜本的な見直し（学科別収支、予実管理）が行われている。また、学校法人として中期計画の作成を進めている。

項目 9 法令等の遵守

評価：4.0

- ①教職員が行う自己点検・評価は学校を評価するというよりも、それぞれの立場で自らの課題に対して取り組む評価であることが重要。1人ひとりの改善が組織全体の改善に繋がるという基本的な考え方を定着させてほしい。
- ②私の社内でも自己評価があるが、自己評価ありきでの業務とならないよう注意している。
- ③真摯に取り組んでいると思う。
- ④評価結果報告書のHP掲載はおおいに評価できる。

➡ 3（自己評価の実施と問題点の改善に努めているか）については、3段階評価システムを採用しており、所属長による1次評価を、校長・副校長が2次評価、更に理事長が3次評価をおこなう体制をとっている。

個人の評価シートや自己課題に対する目標シート、授業総括シート等を個人カルテとし、都度面接をすることで具体的な改善に繋げていく。点検は8月、12月、3月に実施。

- ①「精一杯の努力」をしていると思う。
- ②一般の方向けの施設貸出が学校PRに繋がるのでぜひ継続していただきたい。こども未来学科のボランティア活動は地域でも評価されていることから、学生や指導に当たる先生方へのバックアップをお願いしたい。
- ③企業においても地域貢献はとても重要であり、ボランティア活動は学生時代に経験しておいて欲しいことの一つ。今後も学校側からの積極的な支援の継続を期待している。
- ④ボランティア奨励・支援を継続していただきたい。
- ⑤検定試験会場等、積極的な社会貢献がうかがえる。

➡ 全学科でのボランティア活動は現実的に難しい。募金活動においても表彰を受けているが、学科により意識格差がかなりある。「社会貢献、地域貢献とは何か。」「なぜ必要なのか」をまずは教職員が理解することが必要。